

令和7年度 学校自己評価システムシート 学校法人越生学園 武蔵越生高等学校

令和8年5月23日

目指す学校像	グローバル化した国際社会のなかで良き形成者・リーダーとして心豊かで実践力のある人間を育成する学校	達成度	A	ほぼ達成(8割以上)	学校関係者評価は、PTA 役員、後援会役員、同窓会役員、学園評議員からなる学校関係者評価委員会による。出席者13名 学校関係者7名 事務局(教職員)6名
重点目標	1 進学実績強化 2 教科指導力の向上をし、学習を促すコーチング指導 3 英語教育とICT教育 4 探究活動で積極的に活動する人材育成を(探究とアントレプレナーシップ) 5 非卒業率を減らす		B	概ね達成(6割以上)	
			C	変化の兆し(4割以上)	
			D	不十分(4割以下)	

学校自己評価

学校関係者評価

年度目標					年度評価(11月7日現在)			実施日 令和7年5月23日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・全コースで学力向上が急務である。 ・BLEND 導入による校務効率化が図られたが、質の統一が課題である。 ・MO 探究ゼミ4 年目となり、指導法等が定着しつつある。	・学力向上 ・公簿・表簿の記録管理 ・総合的な探究の時間の充実	・①教科会の活性化や模試の分析と対策。②定期試験事前講座の設定。③モノグサ、WeblioStudy を活用し、朝学習やコース縦断型テストを実施する。④英検に対する教員の意識向上のための研修を行う。⑤独習 week の設定。 ・マニュアルを作成し規定の周知徹底を図る。 ・地域や大学との交流を図り、外部コンテストにも積極的に参加をする。	・学期ごとの赤点者数を15%以内、学年2%以内を目標値とする。 ・英検取得率…選Ⅱ・アス=3級50%、S特選Ⅰ;2級30%・準2級60%を目標値とする ・各教科が模試の分析をし、GTZについて、選Ⅱ・アス;C:D=8:2、選Ⅰ;B:C=8:2、S特A:B=8:2が目標。 ・探究の型を定着させ、探究ゼミへの橋渡しができたか。外部コンテスト等で質の高い発表作品を多く生むことができたか。	・赤点者数学期29.2%(3年22.4%)、学年4.7%(1年1.9%)。昨年より増。 ・英検:選Ⅱアス・3級・30.7%・選ⅠS準2級44.4%・2級9.6% ・GTZ 選Ⅱアスリト英6:4 選Ⅰ2年数7:3 国6:4 ・探究の型は定着させられている。外部発表においても質を高めることができている。	C	・計画的な自学自習の習慣が必要。 ・GTZ 向上のため、各教科でスタディサプリ等の適切な利用や、過去問演習による強化が急務。 ・英検取得率は monoxer や英検 week の効果が出ているか。実施方法の統一をさらに強化したい。勉強をさせる習慣が必要。	・確かな学力が身につくよう策を打ってほしい ・ブレンドをうまく活用してほしい ・ブレンドの使い方を徹底してほしい ・各教科での模試の結果分析をしっかりとする ・各教科で模試のデータを有効活用する
2	・13 名参加という形で概ね成功したが、反省点も見られる。 ・12月にS特進1年生+希望者7名で実施。	・春季マレーシア研修 ・イングリッシュキャンプ	・生徒保護者への説明会等で参加者を募る。 ・選抜Ⅰコース1年生の行事とし、他コースからも募集をする。	・参加者を募り、研修を実施できたか。また、参加者の満足度を高められたか。 ・参加生徒の満足度、その国への関心を高められたか。学習意欲の向上につながられたか。	・予定通り13名で3月21日出発。 ・レベル設置に問題があった。 ・ドイツ語講座:検定合格者も出た ・長期留学生、日本語能力に難あり。	B	・事前学習を1年間かけて実施。間延びした感あり。期間を凝縮する。 ・全生徒の興味関心 ・オーストラリアの学校と提携。	・行った生徒の発表の場を作る →どうなるという成果発表 →興味付け ・物価高一積立等を検討したらどうか
3	・第一志望合格にむけ学力養成、指導の強化を実施。多様な受験対策の充実と一般選抜への対策の充実を図る。 ・GTZ に切り替え学習習慣を確立するための指導。また、教員の意識改革推進 ・実体験を通しての学びの機会の充実を図る。進学とキャリアを結び付けて、自らの生き方、働き方を考える指導が必要。	・第一志望合格のための指導 ・学習到達ゾーン(GTZ)の向上 ・将来を自分ごととして考えられるキャリア教育の促進	・入試で必要とされる能力、受験プランの早期明確化を目的に、進路指導部面談を実施。志望先に合わせた指導を展開。 ・GTZ 改善のための情報共有。 ・①自身の興味関心の理解、見合った分野の学校、企業への訪問。②面談を実施し、変化する社会でどのような人材が必要とされているか。進学が自身のキャリアについての位置付けを理解し、働き方や生き方を考える。	・①受験生の意識・行動面での変化。 ②入試での合格率の変化。 ③進学者の第一志望の達成率。 ④模試の前後で指導を徹底できているか。 ⑤GTZ 改善のための情報共有がなされているか。 ⑥GTZ 推移が改善されているか。 ・将来を見据え適切な選択ができているか。進学の志望理由が、社会貢献の意識を持ち、働き方や生き方と紐づいているか。	・短大進学率90%過去最高値 ・国公立19名も過去最高を記録。 ・1月の全国模試においてGTZでSランクを取る生徒も出てきた。 ・進路ミスマッチを防ぐため、3年生全員と面談を2回実施。 ・低学年でも進路選択を意識した。 ・学校行事・進路行事を進路選択に活かせるよう取り組んでいきたい。	A	・学習習慣と学力の向上 ・生徒への模試問題への対応力向上 ・適切な情報提供を行う。 ・高大連携校を活用した学びの充実や質の向上を図る ・1年時OC参加→ビジョンが明確に ・社会の変化を捉え、1人1人に合った進路指導 ・進路講演会の充実	・意識付けが良い ・生徒の将来に見合ったミスマッチの無い進路指導が素晴らしい ・高大連携校を活用した学びの充実や質の向上が素晴らしい ・事実として大学進学後に辞めてしまう生徒もいるので、辞めないような進路指導を望む
4	・大きなはじめは起きていないが、注意深く見ていく必要がある。 ・SNS 関連での指導は2件。 ・昨年度は10件17名の懲戒、7件8名の戒告処分。不正行為関連の問題が多く、規則の改正を行う予定。指導後の面談を実行したい。	・時代に対しての変更。 ・いじめ防止及び撲滅に向けての活動。 ・SNS 関連の問題の撲滅。	・必要に応じて規則の見直しを進めていく。 ・『あなたについて』の実施と利用。担任一人だけでなく、連携して適切な対応をしていく。 ・携帯安全教室の実施。Chromebook のルール確認・指導に取り組む。 ・事件の早期発見を行う。指導室に入った場合は、SC との面談をし事後指導を行う。	・時代に対応した規則変更をできたか。 ・『あなたについて』が活用できたか。 ・SNS 関連のトラブルがおきなかったか。 ・指導部たより等での注意喚起を行っていたか。 ・指導案件の減少ができたか。 ・指導生徒に事後指導を行い、生徒の様子を確認できたか。	・アンケートの結果を用いて面談を実施し、問題を未然に防いでいる。 ・SNS を利用した人間関係のトラブルは減ってきているが、飲酒・喫煙が発覚するケースがある。 ・17件22名の懲戒、6件7名の戒告。	B	・アンケートを年5回実施する ・心のケアが必要な生徒はSC と連携を取り、問題解決へ向かう。 ・時代に合うように常にアップデート ・各種講演の実施 ・学校外の問題が増えている ・登下校のマナーの向上	・親に対しての研修・講習も必要 ・保護者と事実のギャップがある ・親と協力をして生徒の成長に繋げる ・中学時代の悪い友達の影響をうけるケースもある→断る勇気のある生徒を育てる
5	・関東大会・全国大会に初出場する部が増えている。新設クラブもある。 ・体育祭、強歩大会での保護者等との交流は貴重な機会である。	・クラブ活動の育成強化 ・地域との連携強化	・クラブ顧問会を行う。 ・体育行事を実行委員会を中心に実施していく。 ・地域行事への参加。強歩大会ではプロギングを実施し、地域美化に関心を持たせる。	・部活動加入率。・全国大会・関東大会出場。・県大会上位入賞。・コンクール入賞。・新部活の成果 ・越生まつりへの参加団体数及び参加者数 ・河川清掃への参加人数	・越生まつりへの参加者数…約160名 ・河川清掃への参加者数…約40名 ・和太鼓、アウトドア部、吹奏楽、ダンス、軽音楽各部が、地元の地域イベントへ参加 ・初のプロギングを実施	A	・各部の実績が素晴らしい ・新部活の躍進も著しい ・プロギング好評 ・規範意識。モラルの向上が急務 ・生徒主体の体育祭の実施	・越生まつり等の地域貢献が素晴らしい ・書道部・和太鼓部の全国大会を始め文化部の活躍も著しい ・保護者達が生徒の活躍を知る機会が必要→ブレンドなどを活用するのはどうか。→要改善
6	・定員まで50名弱届いていない。 ・本校の独自の魅力などを示きれていない。 ・PTA、後援会、同窓会との連携により、学校行事及び教育活動の運営に更なる成果を求める。	・定員確保を見据えた施策の実行 ・魅力ある、居心地の良い学校を目指し、地域・保護者と連携する	・①本校の魅力を伝える。②SNS での露出増、③新地区でのイベント、楽しい放課後の作成。 ・①塾説明会の実施場所を学校へ変更。②公式 SNS をまとめて見られる QR を作成。 ・PTA・後援会・同窓会の活動を通じ、生徒のために魅力ある居心地の良い学校作りを推進。	・単願推薦者の370名獲得、単願受験率上昇。 ・塾説明会の参加者数、中学等でのイベント参加数 ・SNS 登録者数 ・生徒を使った説明会を中心とし、生徒が見えるイベントを多くする。 ・学校評価委員会、PTA、後援会からの評価	・入学者358名と定員に届かなかった。 ・SNS での周知は上手いいった。 ・前年比で100組近くのイベント参加 ・PTA、後援会と連携をとり、組織を活性化させた	B	・私学無償化のため勝負の年となる。 ・中学生人口の調査 ・広報活動をしっかり行う ・教員の募集に対する意識の向上 ・行事をブラッシュアップさせ、更なる発展を目指す	・他の私学を乗り越えて川越から中学生を呼び込むための魅力を作る→募集戦略が大切→特色をいかすことが重要→本校に入学したらこうなるというものを作る。 ・付加価値をつける ・教員の駐車場は舗装にならないか